

PRESSENTATION

運動しない小学生をゼロに ～体力二極化問題の解決にむけて放課 後の過ごし方改革～

神奈川大学 大竹ゼミチームS

樋口史奈 荒木帆弦 大貫真
小磯美幸 若山里奈

COPYRIGHT


PRESENTATION




- 緒言



- 運動嫌いの小学生の特徴・傾向・要因



- 国と横浜市における放課後の政策



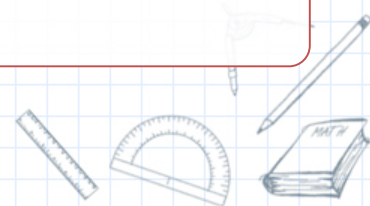
- 考察



- 提言



- 今後の展望

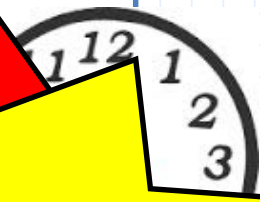
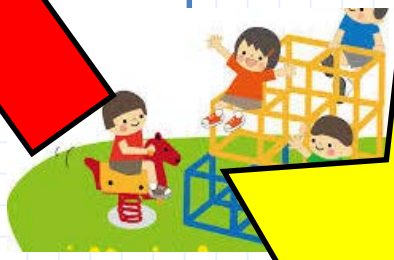


PRESENTATION

空

時

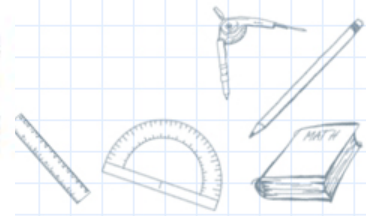
仲



小学生の体力
の
二極化へ

運動をする

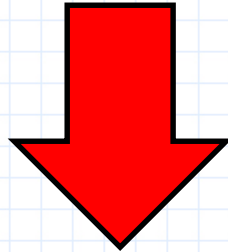
ない小学生



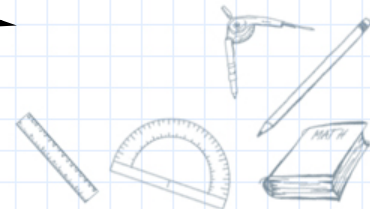
文部科学省

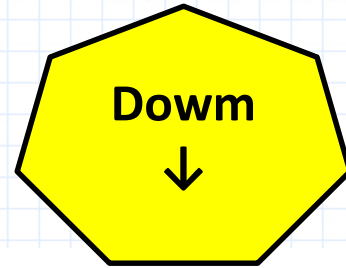
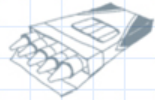
調査分析

セミナー



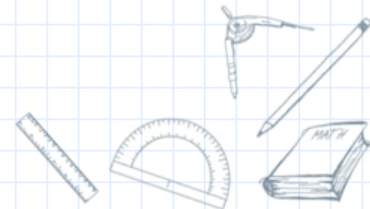
依然として小学生の体力は向上していない





男子

			小1 (6歳)	小2 (7歳)	小3 (8歳)	小4 (9歳)	小5 (10歳)	小6 (11歳)
体力合計点	横浜市	25年	28.47	35.18	41.16	47.05	52.62	57.63
		24年	28.03	35.11	41.53	47.24	52.96	57.98
	全国	24年	30.51	37.71	44.11	49.86	55.89	61.88

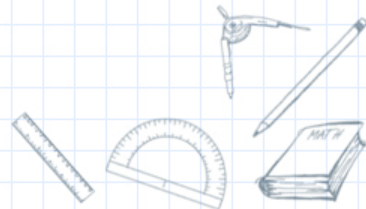


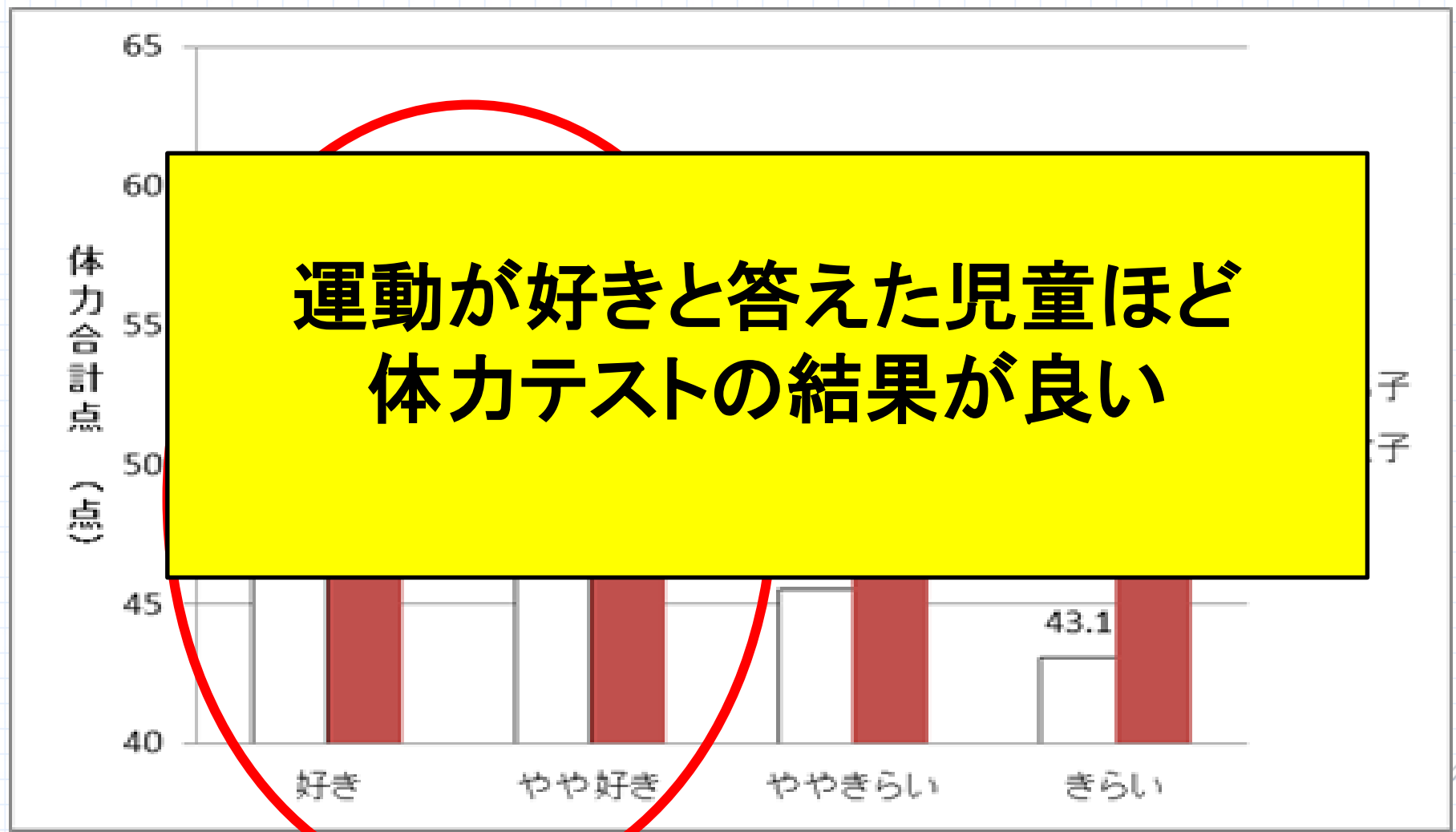
PRESENTATION

女子

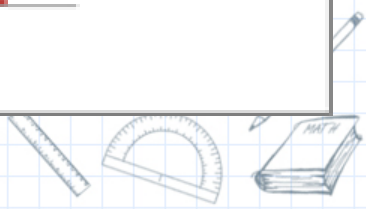
Down
↓

			小1 (6歳)	小2 (7歳)	小3 (8歳)	小4 (9歳)	小5 (10歳)	小6 (11歳)
体力合計点	横浜市	25年	28.14	35.11	41.11	47.12	52.41	56.89
		24年	27.78	35.16	41.39	47.03	52.68	57.59
	全国	24年	30.45	38.42	44.20	50.20	55.48	62.00





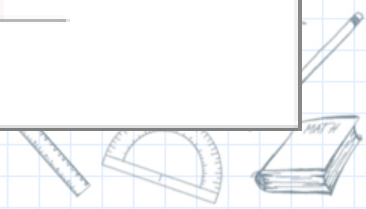
子
子



PRESENTATION



**運動が好きと答えた児童ほど
1週間の総運動時間が長い**



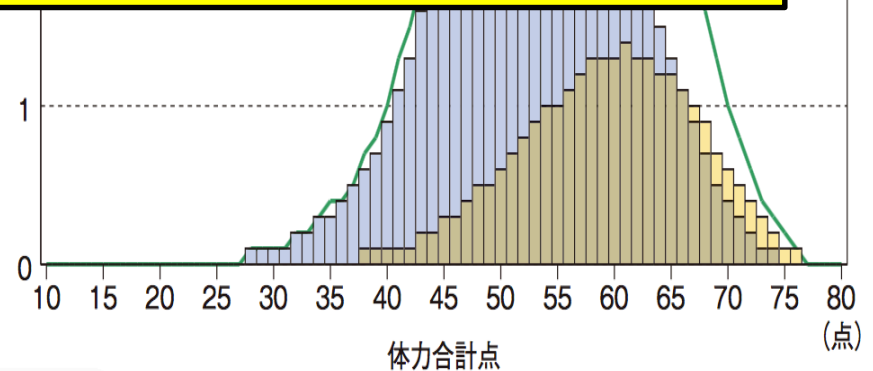
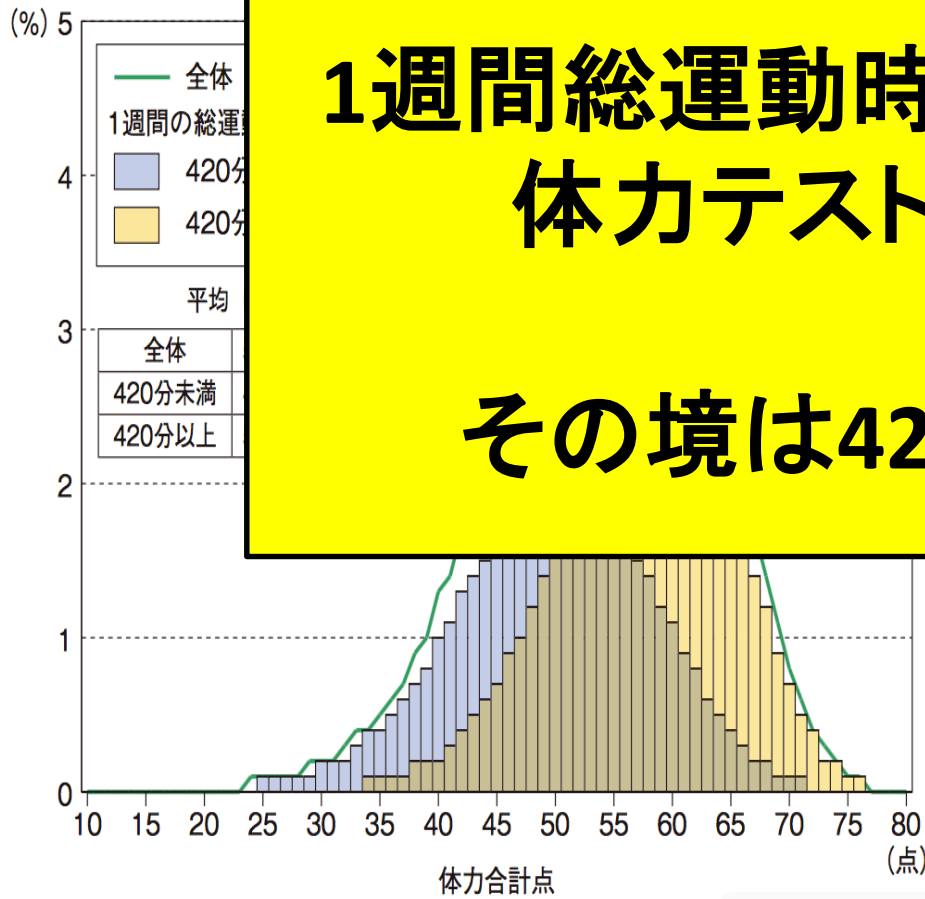
PRESENTATION

男子

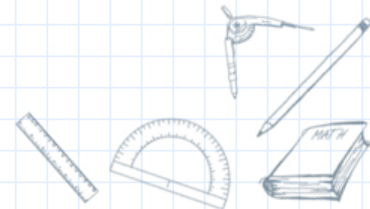
女子

1週間総運動時間が長い児童ほど
体力テストの結果が良い

その境は420分/週であった



以上2点から
 体力テストの結果が悪い児童ほど
運動が嫌い
運動時間が短い
 という特徴があることがわかる。



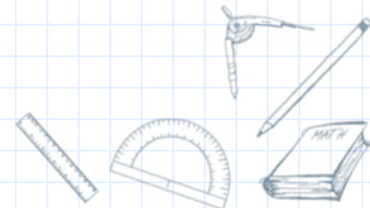
PRESENTATION

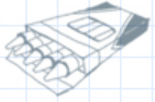
電子
ゲーム

テレビ
鑑賞

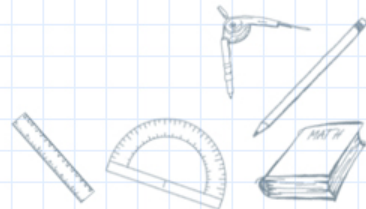


自宅で勉強

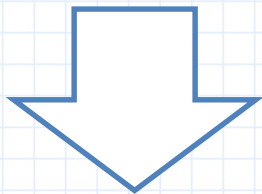




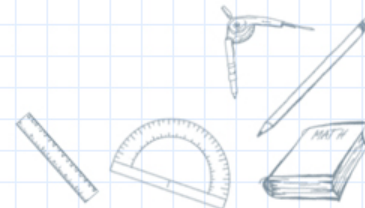
運動嫌いをはじめとする
多くの小学生が運動を実施
していない放課後の時間を、
体力向上にむけたスポーツ
活動に充てる時間にできる
のではないだろうか.....



- ① 先行研究の分析から、運動嫌いの小学生の特徴や傾向、要因の把握
- ② 小学生の放課後の運動・スポーツ活動に関する資料・データから現状を把握、国と横浜市が実施する放課後政策の課題を分析



運動嫌いである小学生を対象とした、運動機会や体力向上を目指すための方法を横浜市に提言



教師の要因

運動学習の場の
要因

運動能力が低い
学年が進むと増加

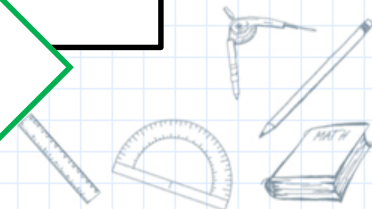
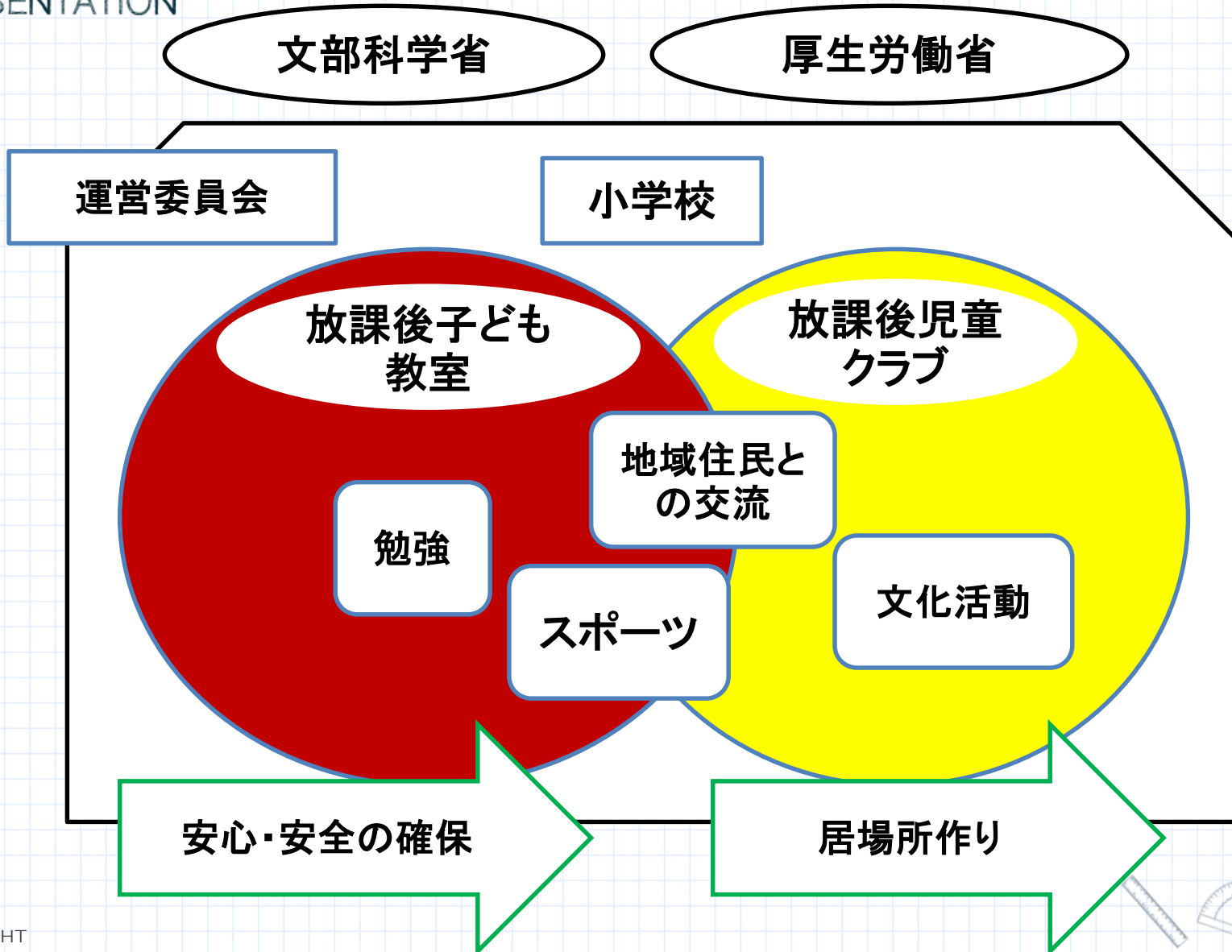
生徒自身の要因

家庭的要因



放課後子ども総合プラン

PRESENTATION



横浜市子ども青年局

《連携》

はまっ子ふれあいスクール

学校施設

小学校1～6年生

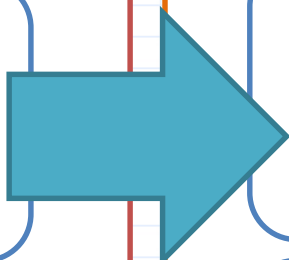
異年齢間の交流
生活の場の提供

放課後児童クラブ

賃借／自前施設

小学校1～3年生
留守家庭児童

放課後保護者が
家にいない児童の
保護

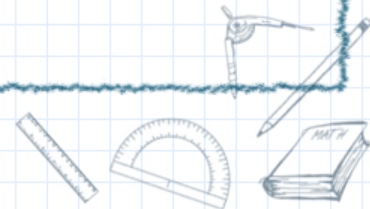


国

横浜

- ① 統括が難しい
- ② 実施率が低い
- ③ 予算不足
- ④ 安全管理者・指導員の育成の必要性

- ① 登録率の偏り
- ② 利用時間・送迎
- ③ 施設・定員
- ④ 活動内容
- ⑤ 人員不足
- ⑥ 指導員の個人差



①プログラムの継続

- ・運動

運動のきっかけづくり
運動習慣をつける

②指導員

- ・指導

体力水準向上
プログラム

③運動嫌

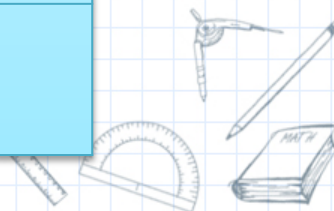
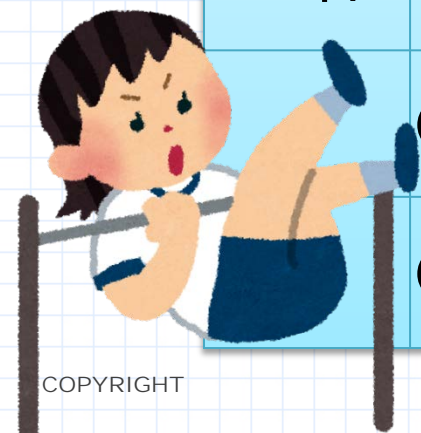
- ・親の運動

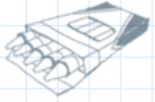
- ・小学生自身の能力の個人差と劣等感



PRESENTATION

対象	運動嫌いな小学生1～4年生
場所	小学校の校庭・体育館
時間	放課後1時間半（15時～16時半）
周知	保護者へのアプローチ
指導員	学生ボランティア
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ行事・体育授業時のフォローアップ ○走る・飛ぶ・投げるを含む遊びプログラム ○インセンティブ特典





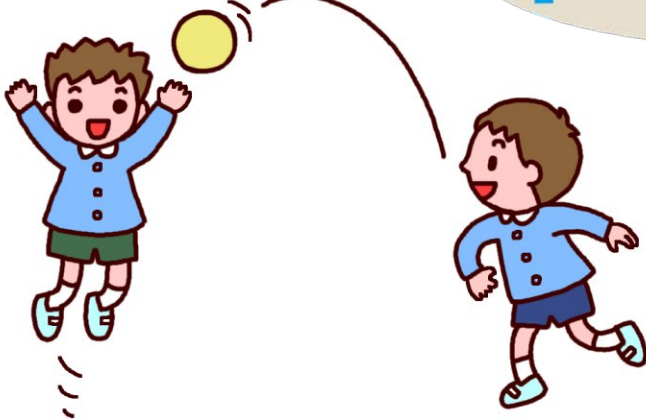
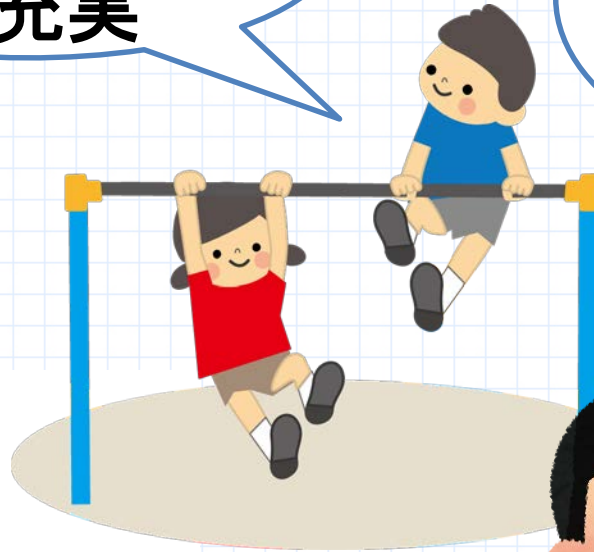
PRESENTATION

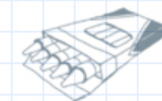
設備、道具
の充実

安全

- ・学校から移動がない、
- ・保健室がある

遊びに制限
がない

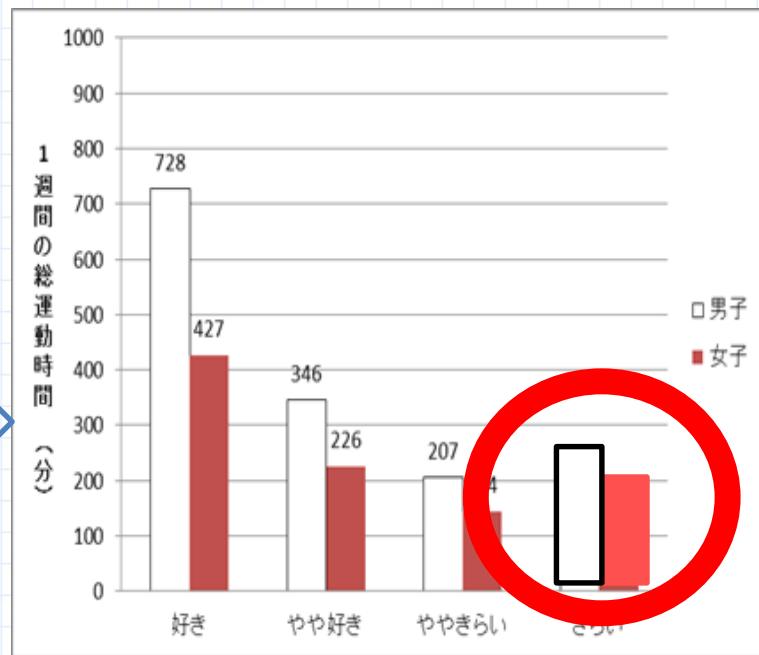
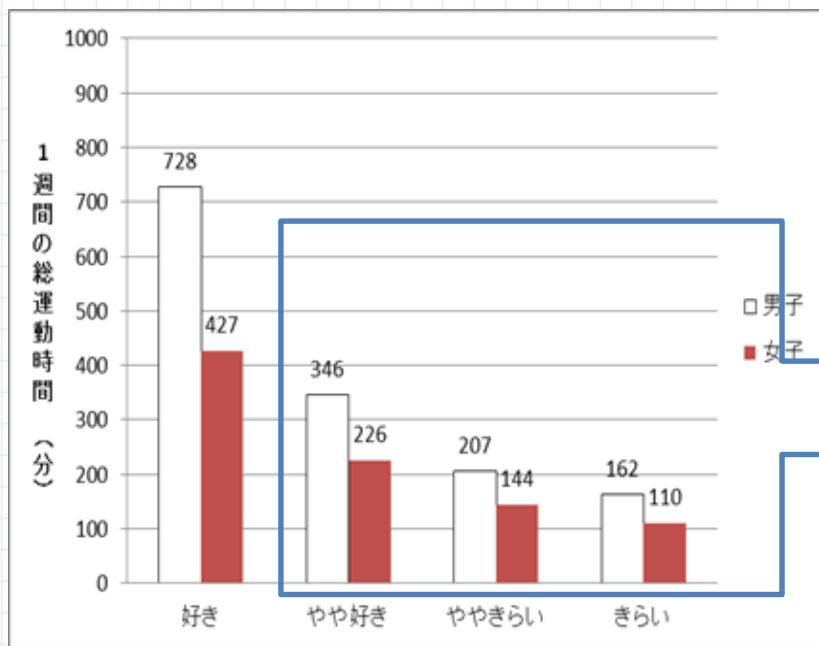


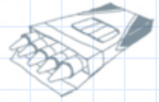


PRESENTATION

- 室内で過ごす小学生が多いから
- 迎えがいらぬ明るい時間で終了
(短時間集中型・冬季は考慮)

「運動がやや好き」な
小学生の運動平均時間
に近づける！
男子162分→252分
女子110分→200分

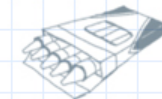




親の運動意識が子どもに与える影響は大きい..

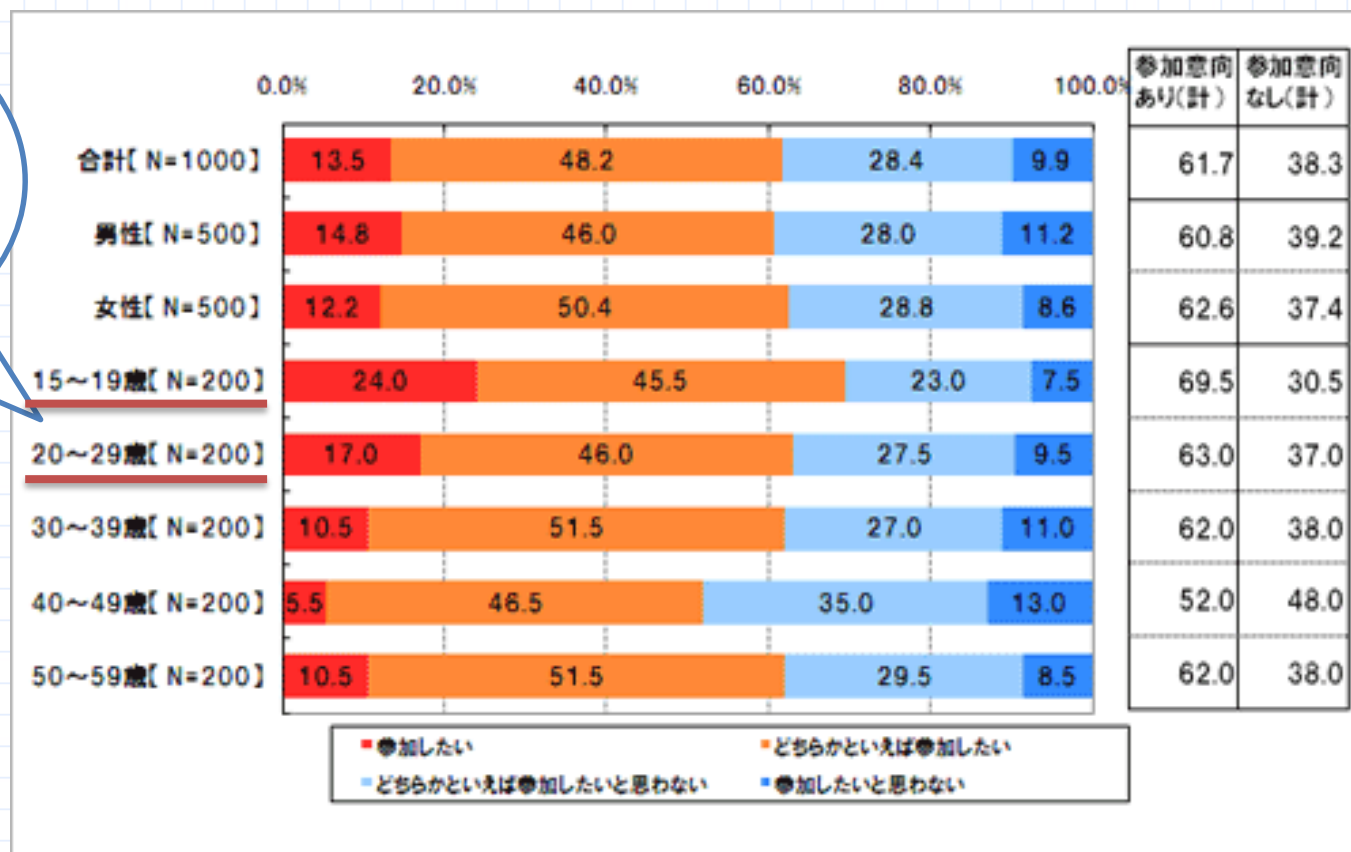
- **小学校低学年時など早い段階から親にむけて運動することの大切さを認知させるセミナーを開催**
- **保護者会、授業参観時を利用して行う**





◆あなたは「ボランティア活動」に参加したいと思えますか

学生の
ボランティアへの
参加意欲！

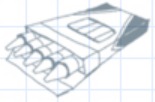




周囲から感じる劣等感を軽減！

- ・運動会、大縄跳び大会、ドッチボール大会等の練習
- ・体育授業のテスト等の補習(鉄棒、縄跳び)

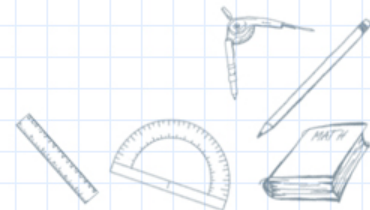
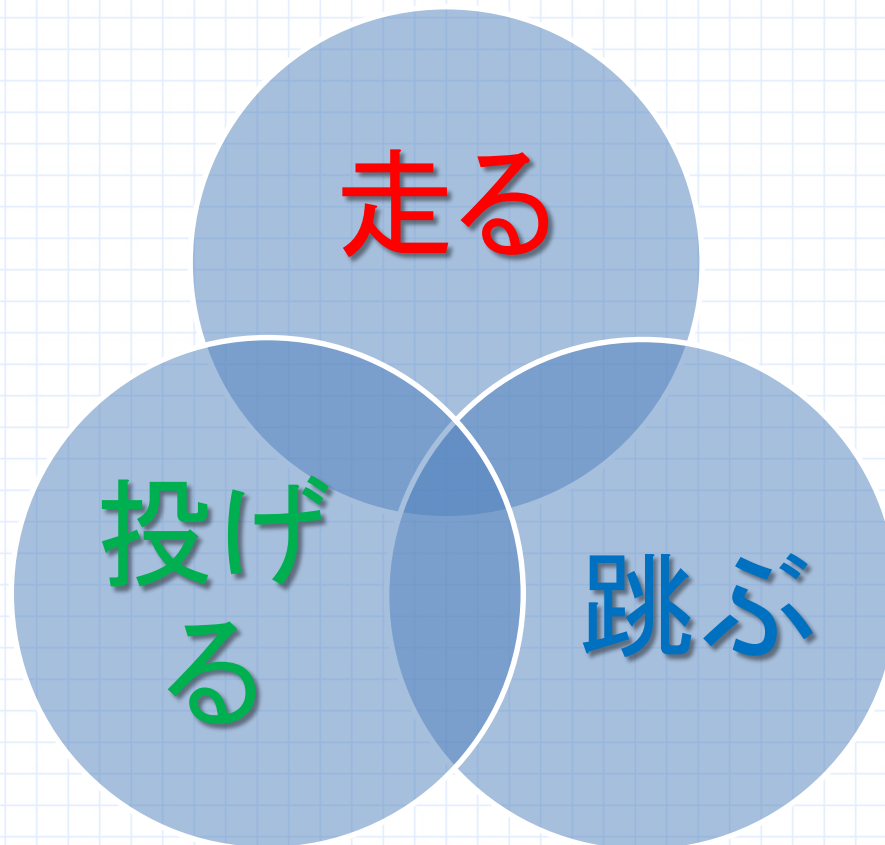




PRESENTATION

現在の活動は運動・体力向上に特化していない..

文部科学省が行う「体力・運動能力調査」から「走る」「跳ぶ」「投げる」といった基礎的な動きの獲得が課題

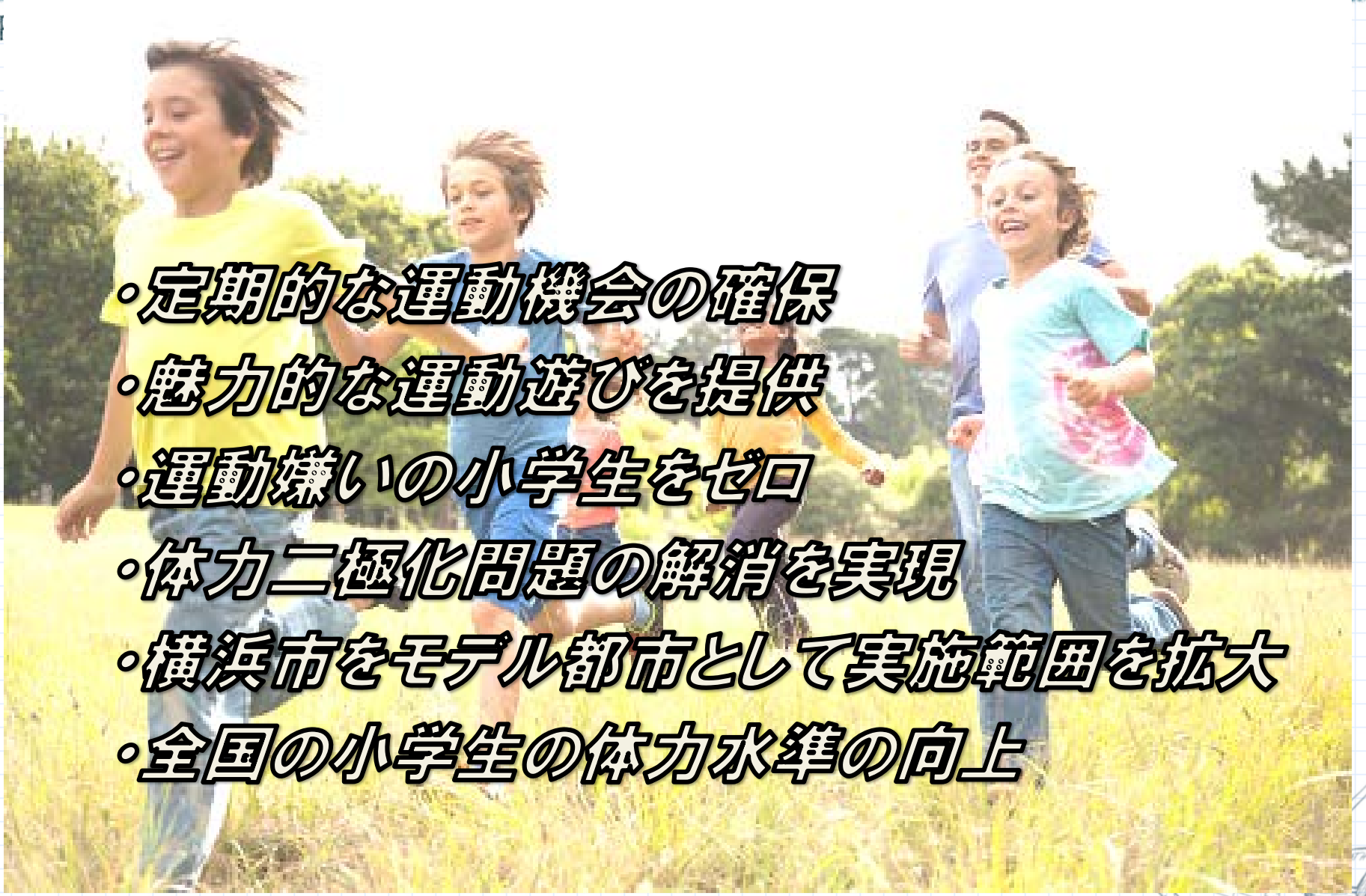
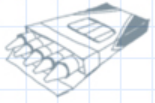




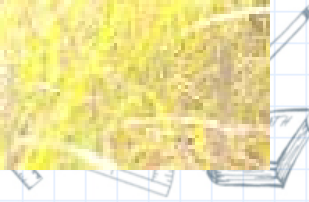
PRESENTATION

- 参加回数をポイント化
- ポイント数に応じて景品と交換
 (景品の財源は横浜Fマリノス・横浜FC・横浜
 ベイスターズに協力を仰ぎ、チケットの割引や
 グッズの提供)





- ・定期的な運動機会の確保
- ・魅力的な運動遊びを提供
- ・運動嫌いの小学生をゼロ
- ・体力二極化問題の解消を実現
- ・横浜市をモデル都市として実施範囲を拡大
- ・全国の小学生の体力水準の向上



PRESENTATION

1) 文部科省HP 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

http://www.mext.go.jp/a_menu/05_c.htm

2) 横浜市HP 児童生徒体力・運動能力調査

<http://www.city.yokohama.lg.jp/>

3) ベネッセ教育総合研究所調査 (2000) 『運動が苦手な子をめぐって』

<http://berd.benesse.jp/shotouchutou/research/detail1.php?id=3351>

4) 第一生命経済研究所調査『小学生の放課後の過ごし方の実態と母親の意識』

<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi/news/news0808.pdf>

5) 文部科学省HP 放課後子ども総合プラン

<http://manabi-mirai.mext.go.jp/houkago/propulsion.html>

6) 横浜市HP 横浜市放課後児童育成事業

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kodomo/houkago/houkago/houkago-club.html>

7) 佐久本 稔 (1970) 『運動ぎらいにさせるものはなにか』

8) 神奈川県立体育センター2007 『子どもの体力及び運動能力向上に関する研究』

<http://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/2413.pdf>

9) 高橋 健夫 (1992) 『運動嫌いと体育授業』



ご静聴ありがとうございました。

